

提携米通信

2018年7月号・黒瀬農舎

助っ人の鴨クンたちは日夜草取りに頑張ってくれています。



マガモ君たち応援団が頑張りはじめました。

今年も山形県から1000羽ほどのマガモ君たちが無農薬田の草取りの応援に駆けつけてくれました。今年のマガモ君たちは、活発で、除草効果良好ですが元気すぎ、イネの傷みも激しいです。2018.6.18撮影

天候不順で、田植えは一部6月に持ち越しましたが、6月3日無事完了しました。

その後は、天候は好転し、植えたイネは順調に育ってくれています。

イネの成長が順調な環境になると、雑草の発生は急激に増え、その雑草たちは、グングン大きくなります。

除草剤を散布すれば、雑草はたちまち退治できるのですが、私たちのように無農薬栽培をしている場合は、草対策に大

わらわです。

今年は、生まれて2週間の小さくてかわいいマガモ1000羽ほどが6月9日に到着しました。

田植えが遅れており、元気なマガモを直ぐに放鳥すると完全に根付いていない苗が、カモの活動で傷むことを避けるため、数日餌場に囲い込んで飼い、イネの活着を待ちました。

でも、そのマガモの放鳥前の少しの間にも、雑草はどんどん芽を出してきます。

そこで、除草機掛けなど色々の対策を行わなければなりませんから、田植えが終われば一段落と、ホッと気を緩める訳にはいきません。

この時期は、我が農舎にとって、田植え時期以上の大わらわ。まさに「雑草との闘い」の開幕です。

この数年、我がロッジに逗留しカモの管理ボランティアを引き受けて下さっていた関西の〇さん。今年はイギリスでの作品展への出品準備に追われ無理とのこと……。また、最近話題の「人出不足の深刻化」で、除草機掛けのバイトさんが見つかりません。

そんな、こんなで、今年の6月は、ほぼ毎朝4時に活動開始という特に忙しい日々でした。

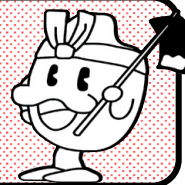
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で、留守電受けが多くありますが、ご了承ください。承をお願いします。

★電話は、日祭日や、夜間もOKです。

★そろそろ暑い時期に入ります。定期利用の方でお米が余った時は遠慮なく一時パスのお電話をどうぞ。

E-mail: akita@kurose.com Web: [提携米 黒瀬農舎](#)

- ★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。
- ★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

無農薬栽培の雑草対策は、決定打がないのが実情

この通信で過去にも何度か取り上げたことがあります、有機のお米作りで、一番大変なのは雑草対策です。昔から「農業は草との闘い」と言われている通りなのです。

この面では「除草剤」の出現は、農民を雑草との闘いから解放した救世主かも知れませんが、



餌場で遊ぶマガモ君たち

餌を与えすぎると、田圃の餌を求めての活動が減り、除草効果が劣ります。不足すと、お腹をすかせるのでしょうか、イネの葉っぱまで食べられます。
(2018.6.18撮影)

が、私たちの有機栽培では、当然ご法度です。

イネの有機栽培での雑草対策には、色々たくさんの方がいますが、残念ながら、これが最高であるというモデルは未だにないのが実情です。

そもそも、イネを残して他の雑草だけを枯らす選択性のある実用的な除草剤の普及が始まってから、まだ半世紀も経っていません。

太古から除草剤出現までの間という長い稲作の歴史の中で、決定的な雑草除去法は、除草機か手取り以外には見つからなかった訳ですから、それは当たり

り前のこととも言えます。

我が農舎でも、雑草対策の決定打はないまま、色々の方法を組み合わせて対応しているのが実情です。

列記すれば、田圃をきれいに均す。丁寧な代かき。深水管理。米ヌカやクズ大豆、微生物などで表土の醗酵を促す。田植え機に取り付けた再代掻き装置の活用。種々の除草機や物理的な雑草退治機具の利用。人力。カモの放鳥。

これらを田圃の状況に合わせて組み合わせるのいでいる訳です。

また、東で「〇〇の除草道具が良い」と聞けば、翌年はそれを手に入れ、西で「〇〇の微生物や有機資材が良く効いた。」と聞けば、それを試し、南で『〇〇の耕方で雑草が急減した』と聞けば、またそれを試行する。

あらゆることを試し続けています。・・・でもどの方法も、雑草を減らすことに、それなりに効果はあっても、決定打はまだありません。

マガモやアイガモの放鳥も、決定打ではありませんが、手間や費用から見た効果は、今の所一番良いようです。また、動物を飼うことは、他の方法よりも、可愛くて好感が持てるところがグウです。

でも、マガモ君たちの助っ人も、ただ放鳥すればよい。というものではなく、色々のコツや工夫が必要のようです。

カモ君たちの活動が鈍いと当然効果は劣りますが、活発すぎると草は退治できたが、イネも無くなった。となります。

ですから、イネの活着まで放鳥を待つこと。何羽の放鳥がよいかを見極めること。餌を適量に（多過ぎれば、働かない。少な過ぎれば、イネまで食べられる）etc

毎朝4時からのお付き合いは面倒ですが、可愛いものです。

どうぞ一度お訪ね下さい。

カモ除草で困ることは・・・

- ①カモの集団脱走・・・田圃の周囲の網の点検。でも、カモは群れで動くので脱走したカモを1Km余り先から連れ戻すのは慣れれば以外に簡単。
- ②カラスの襲撃。常に散弾銃で追い払い、カモを守ります。

